二十八宿と三十番神

翠　溪　生

"二十八宿"とは黄道の附近に沿ひて輝く二十八群の星の集團である．元來之れは印度に於て，天球上に其の位置を定めたもので，印度では，斗宿を除いて二十七宿としたものである．漢譯して昴，畢，觜，參，井，鬼，柳，星，張，翼，軫，角，亢，氐，房，心，尾，箕，(斗)，牛，女，虛，危，室，壁，奎，婁，胃と宿名を附した．現在の星座では此等は大體次の樣になるものである．

昴と**畢**は"牛"，**觜**と**參**は"オリオン"，**井**は"双子"，**鬼**は"蟹"，**柳**と**星**と**張**は"ヒドラ"，**翼**は"コップ"，**軫**は"烏"，**角**と**亢**は"乙女"，**氐**は"天秤"，**房**と**心**と**尾**は"蝎"，**箕**と**斗**は"射手"，**牛**は"山羊"，**女**と**虛**は"水瓶"，**危**と**室**と**壁**は"ペガソス"，**奎**と**婁**とは"アンドロメダ"，**胃**は"羊"．

大體，此の二十八宿の位置は太陰の運行する位置と合致するが，之は勿論太陰の一周天が太陽に對して27日7時間餘になる故に定めたもので，暦の作製上，便宜の爲に案出せられたものである．

かくて正月は室，二月は奎，三月は胃，四月は畢，五月は參，六月は鬼，七月は張，八月は角，九月は氐，十月は心，十一月は斗，十二月は虛より各月の朔を建てたのである．

「**大略天學名目鈔**」には

"二十八宿又二十八舍"

天ハ無體ニシテ星宿ヲ以テ體トス．是故ニ日月ノ行度五星ノ運步ヲ算計スルニ皆二十八宿ノ星度ヲ測窺シテ七曜ノ旋行度分ヲ知ルモノ也．二十八宿ノ外衆星共ニ常ニ其度極ヲ去ル遠近ヲ測リ定メ置テ時ニ取テ便トス．天ノ黃道ハ秤量ノ衡ノ如ク廿八宿ハ量目ノ星ノ如シ．星宿ニ依テ七曜運行スル分量ノ多少ヲ知ル者也．七曜ハ自行有テ行度伏見時々動テ齊シカラズ是ヲ緯星ト云．廿八宿衆星ハ一粒各々自行無クシテ万古座列ヲ變ゼズ．一同ニ天ニ從ヒ附ス．晝夜東西ニ左旋運回スル而已．舍ト云ヒ宿トイフモ七曜行道ノ驛路ニシテ次第ヲ經テ移リ行クコト人ノ旅行ノ如キヲ云．躔度ト云モ日月宿舍ト云意也．

又「**天經或問**」には

赤道平分南北．以爲東西經行之準，黃道斜跨赤道上，爲太陽行度，今以經星麗黃赤二道界者，圖之則知黃赤道麗天位分

とある．

二十八宿も，「天經或問」や「天學名目鈔」の如く考へらるれば先づ以て無難

ではあるが，之と日月五星とのコンビネーションを作出して，吉凶の判斷の材料とする等は，謬想の甚しいものである．併し，遂には脫逸して，此の星宿を夫々の神に配し，崇拜するに至つた．古代人が天體讃仰の上から信仰したことは，或る程度まで恕すべきことである．現代人といへども理學研究の結果，我が太陽の恩惠を感謝し，之を崇拜するに吝ではない．遊星運行の位置を今も天蝎宮……等々十二宮に配するが如き，昔時の名を保存してゐる其の一例とも見るべきか？

さて，二十八宿に歲星(木星)，太白(金星)，熒惑(火星)，北辰(北極星)の四星を加へて合計三十二となし，之を東西南北に各八つづゝ配し，三十番神として(實は三十二神)天地四方の守護神として信仰せらるゝに至つた．卽ち

「東宮八神」

歲星神　角星神　亢宿神　氐宿神　房宿神　心宿神　尾宿神　箕宿神

「西宮八神」

太白神　奎宿神　婁宿神　胃宿神　昴宿神　畢宿神　觜宿神　參宿神

「南宮八神」

熒惑神　井宿神　鬼宿神　柳宿神　星宿神　張宿神　翼宿神　軫宿神

「北宮八神」

辰星神　斗宿神　牛宿神　女宿神　虛宿神　危宿神　室宿神　壁宿神

以上の神々は天地四方守護の任務を負はせられ，假令へば歲星卽ち木星は木祖神(久久能智神)，太白神卽ち金星は金祖神，熒惑神卽ち火星は火神といふやうに，其他の神々にも，山川草木禽獸虫魚江灣海洋に至るまで，夫々分擔守護せらるゝ．風雨雷電や時刻までをも護らせ給ふに至つては，用意周到の程お察し申上げる．

"三十番神"の信仰が二十八宿と關係を保持しつゝ，我國ではかなり古い時代から(少くも平安朝以前から)，昭和の現代に至るまで繼續せられ，ネオン・ライトの照明の下に，料亭や蕎麥屋等の軒先に"三十番神"と風雅な文字で書いた赤い圓形の大提燈が吊されてゐる．併し之にも變遷があつて，近頃は"御神燈"と書くやうになつて，其の文字の傍に金比羅さんや稻荷さんの紋所が描かれてゐる．

所が，我國では古代より凡そ十種の"三十番神"があつて，神樣には變りはないが，其の御役目には少々變つた所がある．

1. 天地擁護の三十番神……東西南北に配祀す．
2. 內侍所の三十番神……四方に配祀せず．
3. 玉城守護の三十番神……左は靑龍，右は白虎，前は朱雀，後は玄武の四方に配祀す．

4. 我國守護の三十番神……天神地祇で，夜司と晝司との如く對偶する故，實は"六十番神".

5. 禁闕守護の三十番神……これこそ全く日本化して，我國內の諸國に鎭座の諸神中より三十柱を選出して，而も日々更番に御守護を願ふのである．卽ち

一日	熱田大明神（尾張熱田）	二日	諏訪大明神（信濃諏訪）
三日	廣田大明神（攝津廣田）	四日	氣比大明神（越前敦賀）
五日	氣多大明神（能登　）	六日	鹿島大明神（常陸鹿島）
七日	北野天滿宮（山城京都）	八日	江文大明神（山城大原）
九日	貴船大明神（山城西山）	十日	天照皇太神（伊勢山田）
十一日	八幡大明神（山城男山）	十二日	加茂大明神（山城愛宕）
十三日	松尾大明神（山城西山）	十四日	大原野大明神（山城大原野村）
十五日	春日大明神（大和奈良）	十六日	平野大明神（山城京都）
十七日	大比叡權現（近江坂本日吉神社東殿）	十八日	小比叡權現（近江坂本日吉神社西殿）
十九日	聖眞子權現（近江坂本村宇佐宮）	二十日	客人權現（近江坂本白山姫神社）
廿一日	八王子權現（近江坂本村牛尾神社）	廿二日	稻荷大明神（山城伏見）
廿三日	住吉大明神（攝津堺市）	廿四日	祇園大明神（山城京都）
廿五日	赤山（せきざん）大明神（山城　）	廿六日	建部大明神（近江瀨田）
廿七日	三上大明神（近江野洲）	廿八日	兵主神社（近江野洲）
廿九日	苗鹿（みやうか）大明神（近江雄琴）	三十日	吉備大明神（備中吉備郡眞金村）

6. 法華守護の三十番神……前の三十社中より大比叡，小比叡，聖眞子，客人，八王子の五神を，順次月初より六日づゝ祀り，丁度三十となる．

7. 如法經守護の三十番神……祭神は，禁闕守護の三十番神と大略同樣であるが，祭日は多少異つてゐる．

8. 法華經守護の三十番神……日蓮上人が，玉法佛法冥合の理義に依り，第五のものと同神を祭祀したものである．

9. 仁王經守護の三十番神……仁王護國の主旨に依り，禁裡守護と同じき神を祭祀したのである．

10. 如法經守護の三十番神……三十の中より十二を選び，十二支に配して祭る．

以上は神祇家の相傳のものもあり，兩部神道，本地垂迹神道，佛敎者等の宣傳にも係り，人間の弱點につけ込んで流布したものである．故に人氣商賣の料亭や蕎麥屋の軒頭の御神燈となつた所以あるである．併し，元を正せば神秘の

扉開き得ざりし時代の天體讃仰に基因してゐる.

〔附記〕 こんな事を書かうとした原因は，私の住む西宮市今津は(西隣の津門に對し) 上代には相當優良民族の住した土地で，國寶指定の銅鐸が土中より出た所であり，明治維新の大改革を被つたにも拘はらず，今尙，古社寺が少くない．其の中に三十番神奉祀の村社“上野神社”があり，北辰を祭る妙見宮があり，妙見宮の大提燈には北斗七星が描かれて居る等を見，更に上野神社の世話方から，神職でもない私に說明を請はれたので，(詳細は省くが)こんなものをものした．「天界」から脫線した記事であるので，遠慮しながら綴つた．

十數年前會津に遊んで，有名な螢「日新館」の阯を訪ねたことがあつた．若松驛で俥を雇つて案內を請うたが，車夫は全然何も知らない．彼處此處と尋ね廻つたが，何處でも皆目知らない．最後に武術道場で聞いて漸く判つた．それは「天文」といふ醬油釀造家の所有となつて居るとの事，俥夫も“天文ならば”と，章駄天走り，其處に導いて呉れた．其處の主人公は八十餘歲で猶矍鑠であつた．玄關には竹刀や劍道の防具等があつたので住所が判つたことが首肯された．

私の目的は日新館の天文臺阯を見たいのが目的であつたので，早速案內を願つた．其處には妙見宮が祭られてあつた．

最後に，會津が生みし碩學新城先生を偲び，更に其の高弟として，隕鐵田上號に因緣深い山本博士の前途の光明を祝福したい．

質　疑　應　答

問ひ． “短週期變星”等の觀測を記錄するに當り，ユリウス通日を小數點以上3位まで記す時，日心時に補正しなければならないとの事であるが，之れは如何にして補正は出來ませうか？　出來るだけ簡單な計算法を御教へ下さい．

(XY)

答へ． 地心時から日心時へ導くためには，一般に下の式があります：

$$(\text{日心時}) = (\text{地心時}) - 8^{分}.308 \times R\cos\beta\cos(\odot - \lambda) \quad \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots(1)$$

但し，こゝで，R は地球から太陽までの距離 (天文單位で表はす) で，普通の天體曆や天文年鑑にあります．又，β と λ とは變星の黃緯と黃經です．尙ほ，$\odot$は太陽の黃經です．

$\odot$と R とは一年の季節のみに關係するもので，總ての星に共通ですから，(1)の式は，次の表を用ゐると，極めて簡單に計算出來ます．